

あじさいの里 復活プロジェクト (仮)

～「それ私たちが引き継ぎます!!」中学生と地域が協働した里づくり～

1. はじめに (安富町史より)

姫路市の北西部に位置する旧安富町は、濃い緑の山々に囲まれ、林田川の美しく澄んだ川の流れが町の中心を流れ、また中国縦貫自動車道路が東西に通っている。

播磨風土記によると古代は「安師(あなし)の里」と呼ばれ、安師川(林田川)のおかげで近隣の地域よりも肥沃な里でもあったようである。

中世には京都の賀茂神社の寺社領庄園となり安志庄と呼ばれていたようである。また町のシンボルでもある安志加茂神社もその頃に創建されたようである。江戸時代に安志藩(1万石)が置かれ、小笠原氏の陣屋が現在の安富中学校の場所にあった。明治維新の時に版籍奉還により安志県になったが、その後の廃藩置県で姫路県になり、1週間後に飾磨県に改称された。さらにその4年後には兵庫県へと統廃合された。明治10年代に安師村と富栖村が誕生したが、昭和31年に両村が合併して安富町となった。

安富町では「花とホタルの町」として明るい町づくりを行い、昭和47年には安富町花(あじさい)・町木(トミスズギ)が制定された。あじさいの里を安志加茂神社周辺に整備し、昭和53年ごろより、文化活動の発表の場として「あじさい祭り」を毎年開催していた。(現在あじさい祭は規模縮小)

平成18年度に平成の大合併により、宍粟郡安富町から姫路市安富町となった。

2. 安富中学校のあゆみ (安富町史より)

安富町史によると、昭和22年4月に新制安富中学校が誕生した。昭和30年代から40年代にかけて校内で桃園をもうけて栽培をしていたようである。また1966年から1979頃までホタル研究部がホタルの飼育を行い、マスコミに取り上げられ「安富町のホタル」が一躍有名になったようである。これらの地域の文化・産業情報の発信元ありたいとの思いが郷土教育のもととなってきた。

安富中学校はその時代その時代の社会変化に伴って、要求に応えつつ、校風と伝統を保ち、「教育こそ安富町発展のもとである。」との地域の願いとともに発展してきた。

しかしながら近年は全国的な少子高齢化により、姫路市においても特に安富地域のような山間部は児童生徒数の減少が顕著になってきており、学校の教育活動にも大きな影響を及ぼしている。

3. 「あじさいの里復活プロジェクト」 ～中学生が主導するまちづくり～

梅雨の時期になると安富中学校に隣接する安志加茂神社内にあるあじさいの里やあじさい公園では、安富町の町花でもあった紫陽花が、かつては数万株咲き誇っていたようである。

安志加茂神社の真田宮司の話によると、近年は鹿の食害に合い紫陽花の株数が激減しており、あじさいを楽しみに訪れる人ががっかりすることもあるという。

神社や地域の有志の方が細々とあじさいの植栽を行っているが、とても間に合わないようだ。

そこで地域の課題解決を通じて、中学生の若い力で旧町のシンボル「あじさいの里復活プロジェクト」に挑戦してみてもはどうだろうか?

4. 具体的な活動

①地域学習 ～ブランドカリキュラムへ組み込む～（安富北小はホタル。安富中はアジサイ）

・総合的な学習、技術、生徒会活動等の各教育活動の中に位置づける。校内で毎年アジサイの苗を挿し木で育て、その苗を地域に植栽する。

※例えば、一人2ポット×100名=200ポットの苗を7～8月に作成（夏挿し）し、翌春にあじさいの里に地域の方と植栽する。目標はかつてのあじさいの里の復活を目指し、学校周辺へもあじさいの植栽を広げる。5年～10年程度の継続はしていきたい。

・活動を無理なく、持続的に行うために、生徒会の活動、カリキュラムの中に組み込む。

職員の異動等に影響されずに、地域や企業等との協働、人的ネットワーク、栽培技術、ノウハウの継承などを続けていくことが可能となる。

②地域を巻き込む～協働・情報発信～

・小学校、PTA、地域、各団体、行政、企業など周囲を巻き込みながら、活動を広げ協働する。

・安富中の活動、安富町の地域活性化（安志加茂神社・あじさいの里等）の情報発信を通じて、観光客へのPRをする（パンフレット作成、インターネットの活用、メディアへの情報発信など）

③発展させる～将来の地域リーダー～

・地元の地域社会、歴史、文化、自然、産業、人と野生動物の関係などを考える機会にし、地域の未来を担う若者として意識を高める。

5. SDGs としての取組み ～持続可能なまちづくり～

①SDGs のターゲット

中学生が中心になり、地域と協働しながら、生徒自らが町づくりに関わり、活動の中で伝統や文化を考えることで、生徒の郷土愛を育み、地域コミュニティの活性化につなげていく。

4. 質の高い教育をみんなに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 陸の豊かさを守ろう
11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう

②大阪万博 EXPO2025 への参加

「あじさいの里復活プロジェクト」を大阪万博 EXPO2025 の共創チャレンジに登録する。

※1 「TEAM EXPO 2025」プログラムとは、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現し、SDGs の達成に貢献するために、多様な参加者が主体となり、理想としたい未来社会を共に創り上げていくことを目指す取り組みのこと。

※2 共創チャレンジへ登録することで全国の団体とネットワークができる可能性が広がる。

※3 兵庫県の SDGs の取り組み ひょうご SDGs ハブに登録

6. その他

①予算・管理方法など

・当面の活動に必要な経費（栽培等の資材）については安志賀茂神社から協力いただける。

・植栽の準備や植栽後の管理についても神社である程度していただけるので、学校の負担も少ないと思われる。

・全国の諸団体や企業から助成金を受けることも可能であると思われる。

・姫路市の地方創成室も力になってくれそう？（真田宮司さんより）